

2013年度(平成25年度)

事業計画書



公益財団法人キープ協会

I. 環境教育事業部

2013年度は環境教育事業30周年の節目を迎えます。環境教育事業部はKEEP for the Future 2013の基礎となる環境教育を「教育」と「研究」を両輪として推進していきます。子どもからシニア世代までを対象とした教育は、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して展開します。研究は環境保全研究と良質な教育を提供するための環境教育研究とが柱となります。

1. やまねミュージアム

(1) キープやまねミュージアムの役割

今年度26年目を迎えるヤマネの総合的な研究のさらなる推進、ヤマネ保護と森林生物多様性保全の提案、研究成果を活かした環境教育・環境保全策の普及

(2) 2013年度の重点目標

ヤマネ研究成果の総括（論文等）・発信と展示への活用ならびに社会貢献への応用

(3) 2013年度の事業計画

ヤマネの総合的な研究の発展および推進、ヤマネの受託調査、ヤマネ保護と環境保全研究の提案、研究成果を活かした環境教育の普及、「やまねミュージアム」の管理運営、アニマルパスウェイの国内外への普及と開発、老朽化する建物の維持・管理・補修

2. フォレスターズ・スクール

(1) キープ・フォレスターズ・スクールの役割

環境教育プログラムの提供（主催事業・受託事業）、環境教育プログラムの研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2) 2013年度の重点目標

環境教育事業30周年記念イヤーとして総合的な環境教育を推進します。

(3) 主催事業（「実験」「協働」をキーワードにした魅力的なプログラムの開発・実施）

清里エコロジーキャンプ、清里インタープリターズキャンプ、やまね学校、森療時間他

(4) 受託事業

自然体験型環境教育プログラム、指導者養成プログラム、CSR事業、講演等

(5) 指導教育

職員教育、実習生トレーニング、研修生・インターンの受入れ

3. ～ハヶ岳環境と文化のむら～山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンター（指定管理事業）

(1) ハヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献します。

(2)2013年度のテーマ＝自然と未来

(3)事業内容

プログラムの開発と実践、施設内外での展示、年度テーマに即した事業の実施、自然資料収集のための調査、教材開発、地域の拠点施設としての活動、周辺の文化施設、地域にあるネットワークとの連携、自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理

4. 環境省 日光国立公園

「那須平成の森」および「那須高原ビジターセンター」運営管理業務

(1)那須平成の森（フィールドセンター）

フィールドセンター運営、「インタープリターと歩く那須平成の森ガイドウォーク」、「自然体験・学習プログラム」、「無料ミニプログラム」、受託事業（学校団体等のプログラム）誘致、指導者を対象とする人材育成研修の実施（ビジターセンターを併用）、屋内外の展示制作、公園の環境管理、「那須平成の森基金」の事務局運営

(2)那須高原ビジターセンター

ビジターセンター運営、那須町および近隣地域（那須甲子地域）との連携の強化

5. 環境研究所

環境教育事業部の柱の1つとして、事業部横断的に活動を行います。

(1)環境保全研究（やまねミュージアムが担います）

(2)環境教育研究

環境教育実践の整理・研究・発表、キープ協会全体の教育活動の整理・研究、指導教育に関する研究

6. 地域との環境教育事業

地域の教育機関、福祉機関への協力、地域住民への環境教育、構成員としての関わり、北杜市内各種ネットワークへの参画、山梨県内各種ネットワークへの参画

Ⅱ. 酪農事業部

自然環境との共存を目指すため有機 J A S の維持に努め、体験に参加された方々に有機農業を広めていきます。そのために農場の経営の改善に努めるとともに、酪農体験者数の増加を目標とします。

1. 生産農場として

(1) 2013 年度の搾乳頭数は平均 62 頭とし、年間牛乳生産量は、230, 000 k g を目標として牛乳生産量の増加し、安全・安心な牛乳の生産に努めます。

飼育総頭 120～130 頭（内訳、成牛 80、育成牛 25、仔牛 15、雄仔牛 10）

(2) 繁殖牛や肥育した雄仔牛の売却を行います。

2. 実験農場として

(1) 高原農業の一環として有機野菜の栽培に努めます。

(2) 牧草地に堆肥等の散布を行い、循環型酪農に努めます

(3) 引き続き、生ゴミを堆肥化し、資源を有効利用いたします。

3. 教育農場として

(1) 後継者育成及び学習の場として、短期及び長期実習生、日本大学、麻布大学等の学生を受け入れます。

(2) 国際地域事業部と共同で新たな宿泊体験プログラムを提案していきます。

Ⅲ. 研修交流事業部

研修交流事業部は、宿泊施設である清泉寮、自然学校と体験の場であるポール・ラッシュ記念館を運営しながら、公益目的に合致する事業を実施します。

1. 宿泊施設の運営

- (1) 宿泊施設は、学校、企業研修、各種プログラム団体等の利用を促進し、また個人客にも広く門戸を開け、キープの理念を伝え、自然、食育、癒しの場を提供します。
- (2) 他施設との差別化を図るため、各種プログラムを引き続き開発提供し、ホスピタリティとともに魅力ある施設として運営、満足行く滞在を提供して、リピーターの増加を図ります。

2. 利用促進

- (1) 新規顧客は、個人については引き続きインターネット（WEB）と口コミを中心に行い、団体は開発部との連携によって利用促進に努めます。
- (2) また昨年より始めました福島の家族支援プロジェクトの継続や、障害者による施設の利用増加を図ります。

3. ポール・ラッシュ記念センター

- (1) ポール・ラッシュ記念館はキープのハートであり、キープの考えを理解していただく場所として、より多くの方に来ていただけるよう、引き続き積極的な入館者増に向けてのアプローチを行います。
- (2) 定期的な企画展の実施、ホームページの改良、ブログの新設等により、多くの方に来館していただくとともに、今後は旧清泉寮のジオラマ制作や旧宅保存の着手も検討します。

IV. 国際地域部、開発部、仮称FD部、ランドスケープ・プロジェクト

国際地域部

1. 基本方針

(1) 教育機能の強化

キャンプ場は学びの場＝キャンパスと再定義します。宿泊に拘らず、キャンプ場という「キャンパス」の多様な役割の創出を試みます。

(2) MBFプロジェクトの実現

多品種の野菜の試験栽培園に挑戦します。また地域農業者とは「6次産業化」を目指す関係に強化します。キャンプ場での有機 JAS ジャージー牛乳消費拡大に努めるとともに、市場開拓について提案と行動を起こします。

(3) 環境保全型運営の実践

食糧とエネルギーの自給＝地産地消を目指すため、KEEP 全体の土地・水利・森林を資源として管理・経営していくのが本来の姿であると考えます。キャンプ場では暖房機器等について、自給可能なエネルギーを志向して選定することとします。

2. 国際交流・協力事業

(1) 北杜市とケンタッキー州マディソン郡との国際姉妹地域交流事業に協力

(2) 北杜市中学生海外交流事業(受託事業)

(3) 聖公会トライアングルプロジェクト

(4) ピースフィールドジャパン絆プロジェクト協力

(5) フィリピン農山村援助交流事業

①青少年指導者養成プログラム(奨学金)の継続

②スマデル灌漑トンネル建設プロジェクトの助成金等獲得

③オーガニック・カリंगा・プロジェクトのFS

④緑の募金公募事業による森林再生プロジェクト

(6) キープアメリカ後援会(ACK)

(7) 海外からの研修等受入

(8) WYZE インターナショナルのキャンプを支援

3. キャンプ場運営

4月中旬から11月中旬の開場期間中の利用増を図ります。

(1) HP リニューアルのタイミングに合わせて、ユースキャンプ場とフォレストアズキャンプ場の2つのキャンプ場名称を一本化します。

(2) 利用ルールの改訂及びインフォメーション等の改善

- (3) 日帰りプログラムや昼食&体験の提供等、ハリスホールの新活用
- (4) 家族、学生、イベント等、新提案による利用促進
- (5) キャンパス整備を目的としたボランティア・プログラム
- (6) 健康をテーマにしたプログラムを、西の魔女が死んだロケセットを拠点に提供

4. 酪農事業部との協働

- (1) 酪農体験者への食事提供
- (2) 仮称・高冷地実験農園の協働
- (3) 有機 JAS ジャージー牛乳消費拡大に協力
- (4) 清里朝ねぼう市の運営協力

5. 地域協働

- (1) 北杜市長期滞在型リトリートの杜事業コンソーシアム
- (2) 良い食品づくりの会(良い食品博覧会)
- (3) NPO 法人ハナラボの北杜市での活動に協力

開発部

1. 基本方針

- (1) 利用団体の獲得と定着をめざします。
- (2) 企画・商品開発と販売チャンネルの強化を行います。
- (3) 部署・事業部の枠にとらわれない仕組み作りを先導します。

2. 活動計画

(1) 団体獲得と対応

- ① 清泉寮・自然学校・キャンプ場での教育旅行等の新規団体の獲得と対応の強化。
- ② 清泉寮を中心とした MICE 団体の新規獲得と、紹介・派生利用への継承に努めます。
- ③ 清泉寮の未定着団体（および現場引き渡しの困難な団体）の継続獲得とそのため
の対応を強化します。
- ④ 春・秋の稼働期を希望する団体のキャンプ場への移行利用を促進させます。
- ⑤ 新規分野「ランチ+プログラム」団体を足がかりに宿泊団体獲得につなげます。

(2) 企画・商品開発

- ① 競合施設との差別化を図り、付加価値を高める（＝収入を UP）ことのできるファ
シリテーションを絡めた総合的な「環境教育プログラム」および「酪農体験プロ
グラム」の企画商品化を行います。
- ② 「チームビルディング」と「コミュニケーション能力の向上」を中心に据えた教育

旅行および企業研修の企画商品化を行います。

- ③ 食育部を中心に地域と生産者による「食育プログラム」の企画商品化を行います。
- ④ ACK との合同プログラムの開発を進めます。

(3) 販売チャンネル整備拡充

- ① この数年間の開発実績をもとに、紹介業者を会社別・地域別に選別し、優先順位をつけた開発展開を図ります。
- ② 下見後の成約率の高さの実績から、紹介業者特別プランを実施します。
- ③ 理事・職員、既存の顧客からの紹介・派生セールスを強化します。
- ④ KEEP 内での学会やイベント、および KEEP 外での開発機会（エコプロダクツ展、県主催のイベントなど）にこれまで以上に積極的に参画します。

(4) ALL KEEP 体制

- ① 部署や事業部の枠組みを超えた最適な商品・サービスの組み立てを行います。
- ② 顧客や市場のニーズや利用団体の精度の高い反応や情報を正確に各現場に伝え、団体向けの商品やサービスの質の向上や、新たな商品造成に積極的に寄与します。
- ③ 各部署との良好な関係の構築を図ります。

仮称 FD 部

従来のフレンズ・オブ・キープ開設準備室を仮称 FD 部として独立します。

(1) フレンズ・オブ・キープ事務局

清泉寮倶楽部会員 2000 名、キープ協会維持会員 1000 名を目標

(2) 募金目論見書による特定寄附金募金活動

(3) 会員および寄附者とのコミュニケーション活動

ホームページのリニューアルと日常的な管理運用、清泉寮本館案内所に事務室を設けて、案内所の窓口業務を兼務、マーケティング調査

(4) ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～事務局

(5) ポール・ラッシュの会及びキープ日本後援会の事務局

ランドスケープ・プロジェクト

目的は、県有地である KEEP の敷地全体の総合計画を立てることです。

目標は、県・地域社会・KFTF2013・従来から関係してきた他組織・グループ等との連携のもとに「ランドスケープ・プラン」を作り上げることです。

- (1) ランドスケープ方針(2013年3月策定予定)に基づくプランニング
- (2) 鹿対策
- (3) 山梨さくらの会

V. 保育事業部（清里聖ヨハネ保育園）

キリスト教精神に基づく「一人ひとりの子どもたちを祝福する保育」を保育目標に、いつも神様の存在を近くに感じ、すべての命を尊び多様性を認め、他者と共に平和な社会を築いてゆくことができる人になることを願い、子どもたち一人ひとりが持っている感性を大切に育みながら、家庭的な温もりを大切に、心身共に健やかに成長することを願って保育事業を進めてまいります。

1. 異年齢児保育の継続・推進

- (1) 縦割り保育を積極的に取り入れ、子どもたちがお互いにより刺激を受け、共に喜び、互いに受け容れあう心を育みます。
- (2) 保育士たちが異年齢児保育の先進事例から学ぶ機会を設けます。

2. 自然学校・キープ森のようちえんプロジェクトとの連携

- (1) 豊かな自然環境を積極的に活かした体験の機会を通して、豊かな感性と他の生命を尊ぶ心を育みます。
- (2) 乳幼児の野外体験活動におけるリスクマネジメントや、フィールドの整備、生態系に関する専門的知識などの改善・向上のため、自然学校やキープ森のようちえんプロジェクトと連携を取り進めます。

3. 安全・安心な食事の提供と実践

- (1) 家庭的な温もりと食育の大切さから、手づくりの食事の提供を行います。
- (2) 食材については、地場・旬の食材を積極的に利用することを心がけ、アレルギー体質の児童に対しても、丁寧に相談と、個々に合った必要な食事を提供します。

4. 園内研修による保育の質の向上

- (1) 定期的に保育士全員が参加する研修会を開催し、課題の共有、学びのプロセスの共有、年単位での学び等を通して、保育の質の向上に努めます。

5. 保護者や地域の方々と共に育ちあえる場作り

- (1) 子どもの育ちを通してつながる保護者や地域の方々と共に、お話会やワークショップの開催等、子どもも大人も育ちあえる場作りを進めます。

6. 新園舎建設プロジェクトの推進

- (1) 2015年4月の施設供用開始を目標に、新園舎の建設計画を進めます。
- (2) 特に今年度は、助成金（あんしん子ども基金）の本申請、自治体との協議、基本設計を進めて参ります。
- (3) また、建設のために、募金委員会が中心となり広く募金活動を進めて参ります。
- (4) 尚、新園舎の竣工までの期間については、園児の安全・衛生面から、当面の修繕が必要である箇所を改善してゆきます。

VI. 製販事業部

中長期計画 KEEP for the future 2013 における 3 つの柱を重点に置き、製販事業部として様々な事業を行います。

1. 「いちばん美しい農場 (MBF : Most Beautiful Farm)」プロジェクトの推進

- (1) 美しい農場の環境および景観を維持し発展させると同時に、生産・加工・販売の一貫体制構築に向けた準備に取り掛かります。
- (2) そのために、積極的な環境整備を行うことはもちろんのこと、キープ農場ほか関連事業部との連携を強め、また、様々な乳製品製造への道筋を探ります。

2. 教育機能の強化

- (1) キープ農場との協力により、酪農体験を通し、だれでもが気軽に参加できる学びの場を提供します。
- (2) また、多くの人々を迎え入れる製販事業部だからこそできる、情報発信の場を提供します。

3. 環境保全型運営

- (1) 省エネルギー製品の導入、車両運行の見直し、店舗における備品什器類の効率的な使用など、様々な方法で使用エネルギーの削減を図った運営をします。

VII. 広報部

1. 業務目標

- (1) K E E Pの活動を多くの人に知ってもらい、事業運営のための寄付を募ることを目的に広報を行います。
- (2) K E E Pを知っている人を対象に、K E E Pのプログラム参加などの情報発信を行います。
- (3) K E E Pを知らない一般の人たちに、活動や利用促進を図るための情報提供を行います。
- (4) K E E P内のコミュニケーションを充実させ、スタッフが情報を共有します。

2. 情報発信

- (1) 対外的には、K E E Pを訪れる人たちのマーケティング、リサーチ活動を実施するほか、テレビ・雑誌等のメディア対応を行い、K E E PをPRします。
- (2) 内部コミュニケーション
 - ① K E E P週報を発行します。各部からの情報を得て、コミュニケーションを充実させます。
 - ② ポール・ラッシュ記念センター、清泉寮新館・本館レストラン、ジャージーハット、八ヶ岳自然ふれあいセンター、やまねミュージアム、自然歩道を紹介する「清泉寮エリアマップ」を配布して、宿泊客や日帰り観光客に新しい情報を提供してリピーターにつなげます。
 - ③ Friends of K E E P 事務局と協力して、K E E Pの情報誌（キープだより）を年間3回発行します。

3. 具体的な事業内容

- (1) 簡易版K E E P総合パンフレットの制作（カラー4ページ2000部）
- (2) K E E P内の案内看板改修。製販部・施設部等の協力を得て内部制作
- (3) K E E P情報誌（キープだより）の発行（年間3回1000部）
- (4) 年間マーケティング調査、エコツーリズム、観光振興、各種プロモーションなど

平成25年度(2013年度) 公益財団法人キョーゾ協会 一般会計収支予算 合計表

単位:千円

収支決算	収入	事業費①	人件費②	管理費③	支出計①～③	部門損益	減価償却費	本部経費負担	支出計	損益	キョウゾエロ-
研修交流事業部	481,680	61,270	174,510	197,780	433,560	48,120	123,300	17,910	574,770	-93,090	30,210
環境教育事業部	182,710	0	115,500	55,650	171,150	11,560	2,940	10,000	184,090	-1,380	1,560
酪農事業部	67,400	10,500	30,350	16,200	57,050	10,350	9,500	2,100	68,650	-1,250	8,250
国際地域部	69,700	6,970	22,880	34,600	64,450	5,250	4,500	1,000	69,950	-250	4,250
聖ヨハネ保育園	59,300	4,320	49,500	4,060	57,880	1,420	8,220	0	66,100	-6,800	1,420
公益事業計	860,790	83,060	392,740	308,290	784,090	76,700	148,460	31,010	963,560	-102,770	45,690
製販事業部	566,500	228,000	124,820	54,300	407,120	159,380	12,190	15,800	435,110	131,390	143,580
清泉寮売店・レストランほか	122,260	34,780	41,290	33,880	109,950	12,310	13,700	1,990	125,640	-3,380	10,320
収益事業計	688,760	262,780	166,110	88,180	517,070	171,690	25,890	17,790	560,750	128,010	153,900
本部	24,300	0	86,700	51,500	138,200	-113,900	13,400	-48,800	102,800	-78,500	-65,100
合計	1,573,850	345,840	645,550	447,970	1,439,360	134,490	187,750	0	1,627,110	-53,260	89,490